

第1期志津川高校魅力化構想（案）

パブリックコメントについて

募集期間	令和2年2月28日（金）から3月13日（金）	
募集方法	役場企画課へメール、郵送にて提出	
人数	44名	
件数	121件	

	回答項目	人数	比率（%）
志津川高校 魅力化について	①積極的に推進すべき	40	87.0%
	②推進すべき	5	10.9%
	③必要ない	1	2.2%

※選択肢を2つ回答している者がいるため、回答人数と相違している。

第1期志津川高校魅力化構想（案）パブリックコメント

章	細項目	No.	ご意見の内容（要旨）	町の考え方
第2章	現状の環境要因	1	志津川高校の校則が昔より厳しくなったと聞く。図2記載の「生徒が素直」であるならば、校則を緩めても良いのではないか。盲目的遵守は、保護者や教育現場関係者にとっては学校運営がやりやすいかもしれないが、生徒の将来にとっては思考力の強化に結びつかずマイナスでしかない。	施策8に記載している通り、学校の規則で生徒を縛るだけでは、様々な事柄に関心をもつことは難しいと考えております。生徒主体の学校運営を目指し、引き続き専門部会等で検討してまいります。
	現状の環境要因 ③豊かな地域資源と多くの課題を教材として活用	2	地域全体が学校という考え方に強く共感しますが、そのためには高校生のことだけを考えるのではなく、地域の大人が学んできた、学んでいるという学びの動きが並行して重要だと思う。大人がまず学ぶ姿勢を見せる必要があるのではないか。大人が学び直しをする、学べる環境を整えることを同時に確立できないか。	施策7-(1)-①に記載している「マイプロ勉強会」は高校生だけではなく、大人の学ぶ場としても考えております。
第3章	志津川高校魅力化の行動規範	3	行動規範はとても大切である。高校魅力化に反対する教員は、まずこの行動規範を意識し、批判より具体的なアイデアを出すべき。	本協議会ならびに専門部会等において、関わる全員がこの行動規範を念頭に置きながら議論を進めてまいります。
第4章	育てたい人材像の策定	4	「起業家精神」は、まさにこれからの社会に必要なである。「地域起業家精神」という言葉が少し分かりづらい。最近であれば、「グローバル（グローバル×ローカル）」という言葉も耳にするが。	「田舎には何も無い」「都会が良い」という価値観ではなく、地域への誇りと愛着を育み、そして、「田舎には仕事がないから帰れない」という従来の地方に対する見方から脱却することを意識し、「地域起業家精神」と定義しております。 「地域起業家精神」は、働く場所や業種に問わず必要な力であると考えております。そして、この町で身につけた地域起業家精神や地域のつくり手としての力は、将来どこへ行っても、どんな分野でも活躍できる人材に成長していく力になると考えています。
		5	目指す人材として掲げている「起業家意識」は必要ないと思う。働く場所がないのではなく、場所はあるが、町内にどんな仕事があるのか、自分がそこで働くイメージが付いていない。中学・高校で実施している職場体験を体験ではなく、授業のカリキュラムと同等の水準に引き上げ、高校卒業と同時に社会人として即戦力になりうるレベルの人材を育てる。生徒に町内の仕事を本当の意味で知る機会を作る。親や周囲が持つイメージだけを聞かされて育つ環境であるため、自分で経験し、見聞きし、考え、納得することを一義におく必要がある。	
		6	行動を起こすことができる人材は、いまの南三陸町に必要なことだ。本構想を実現するに向けて、育てたい人材像を常に議論の中心に置いて、検討して頂きたい。施策に目がいきがちだが、その施策が育てたい人材像に繋がっているのかということを考えて今後議論を進めてほしい。	
第5章	第1節（1） 校名	7	校名・学科編成はいずれも県の承認が必要だ。県全体を巻き込んだ盛り上がりが必要ではないか。校名を変更するのであれば、公募等により決定プロセスをふんだ方が良いのではないか。	宮城県教育委員会、志津川高校、同窓会等の関係者と協議し、検討してまいります。
		8	校名変更は寂しい。震災後に南三陸町という名前が有名になったので、変更するのであれば、南三陸という言葉を入れるべき。	
		9	今の若者世代は、志津川高校という名前にあまり愛着はないと思う。震災で南三陸町の名前が有名になったので、全国の人に伝わる名前が良いのではないか。	
		10	新たな学校としてのスタートのために変更する、という発想については特に反対も賛成もない。校名変更の際のこれまでのイメージ払拭はある程度できると思うが、愛着を持つ卒業生で反対が多いという場合は無理に変えなくても良いのではないか。	
第1節（2） 学科・定員数	第1節（3） 各学科・コースの概要	11	全国募集は費用が適正予算で行うこと自体には異議はないが、成果が望めないことに対する過大な予算をかけることには異議がある。また、寮建設よりも空き家活用や民泊の方が、県外（特に都市部）の生徒にとって響くものがあるのではないか。	受け入れ体制等については、専門部会で慎重に検討を進めてまいります。
		12	普通科のコース編成については、高校入試では原則コース別の募集となっているはず。「学科」制、「コース」制、「類型」制の違いを明確にしていきたい。普通科が大学進学を目標のひとつに掲げることが重要と考えており、基本的に原案に賛成である。	コース、類型のあり方については、専門部会で検討を進めてまいります。
		13	特別進学コースをどう作り上げていくのか具体的に見えない。	特別進学コースのあり方については、専門部会で検討を進めてまいります。これまでの町内中学生、保護者アンケートの結果から「学力向上」「進路実績向上」の要望が高いことを受けてコース設置を検討しているものです。
		14	環境科の設置を提案する。南三陸町では、志津川湾がラムサール条約に登録され、自然が豊かで町民も環境意識の高い町である。南三陸町では、海山里のバランスが良く、暖流寒流、動植物の観察が身近にできる。次世代を担う高校生たちにはぜひ学んでいただきたい分野で、強い関心を持ってもらえると考える。	

章	細項目	No.	ご意見の内容（要旨）	町の考え方
第5章	第1節（3） 各学科・コースの概要	15	志高は学力があまり高くないイメージがある。就職率は高いが、進学者は少ない。学力の底上げが必要ではないか。	地域創造コースは、南三陸町を題材としたプロジェクト型学習を推進してまいります。題材の中には、ラムサール等の国際認証も含まれるものと考えております。 情報ビジネス科は、society5.0時代を見据えた人材育成に取り組む学科として、カリキュラムや具体的な取り組み等についても専門部会等で検討を進めてまいります。
		16	進学を希望する中学生にとっては、佐沼高校や気仙沼高校など進学実績のある高校を受けられる環境が既にある。それを差し置いて、ただ「近くて便利だから」という理由で志津川高校に入学する可能性は高くない。進学希望者に対応したカリキュラムを設定するなら現実味があるが、進学希望者を1クラス分入学させるという構想は、現状とあまりに乖離しているのではないか。	
		17	学力向上を目指す生徒は町外へ出るという話を聞いた。「志津川高校は学力は伸びず大学進学に不利」というイメージは確かにある。ただ志津川には勉強を集中して行える環境（娯楽施設や誘惑になるものが石巻、仙台に比べて少ない）が整っている。そこで寮の整備や特別進学コースを充実させ、「進学するための高校」のイメージをつくるべきだと考える。	
		18	地域創造コースは、私が高校生の時にあれば入りたかった。東北芸術工科大学や宮城大学でも近い学部があるので、大学のゼミなどと連携すれば、よりおもしろいと思う。	
		19	施策1つ1つに異議はないが、結果総花的になってしまっている感は否めない。その中でもコアとなる学びをどこに置くのか、それを鮮明にできないか。その分野は大学のレベルのものまで教えるというようにするのはどうか。それを何とするかは町の将来の方向性とシンクロさせる必要がある。	
		20	進学中心ではなく、地域を学ぶコースができるのは良い事。進学したい子だけではないのだから、充実した学校生活と自主的に活動し、実行力のある人に成長できる場を作ってあげて欲しい。志津川高校の新しい魅力となるコースを作って欲しい。	
		21	地域創造コースはとても良いと感じる。私もA0入試で大学に進学したが、友人と結成した学生団体での活動が大学入試にも活かされたと思う。授業でも、高校生が主体的に行動できる機会を作るべき。	
		22	学科変更については賛成である。県内外を見ても、スポーツ系の学科に目を奪われがちだが、そこは慎重になるべき。ラムサールを活かせる専門性のある学科や、部活動においては、志津川高校陸上部のように得意分野を伸ばすという観点で検討すべきではないか。	
		23	田舎で育った現役子育て世代が大人になって痛感した「学力の必要性和将来の可能性」を町外の進学校に通わせることで子育ての責任感を担保している側面を見逃してはいけないと思う。親の本音は、地元の高校で学力が身につくなら、送り迎えなどの面倒がない方が良い。志翔学舎を発展的に機能させ、偏差値を上げることで生徒数を確保できるのではないか。	
		24	南三陸町を題材にした地域創造コースは良いと思う。町の事業等の成果について生徒自身で考えるような内容があっても良いのではないか。	
		25	県立高校で特別進学コースを設置することは現実的ではないのではないか。学校の授業だけで、難関大学に入れるほど甘くはないと考える。都市部の生徒は塾や家庭教師に投資しており、勉強している内容やレベルがはるかに違う。都市部と同じことをしても勝負にならないのではないか。	
		26	情報ビジネス科は、内容次第で独自性を出せる可能性があるのではないか。社会に出ても役に立つ実践的な内容の授業を行い、それに対して町が補助をすることは生きたお金の使い方だと思う。	
27	毎年入学者数の定員割れのニュースを聞いて、憂慮している。学力の低下が魅力低下の要因の1つかと思う。学力の高い人はよりレベルの高い高校を選択しているため、まずは、学力レベルの向上を目指すべきかと思う。また、進学コースでないコースでは就職しても即戦力となりうる人材育成が必要かと思う（礼儀、基礎知識が欠けている）			

章	細項目	No.	ご意見の内容（要旨）	町の考え方
第5章	第1節(3) 各学科・コースの概要	28	一次産業の後継になる、その職に就きたいという生徒の割合が多いのならば、自然科学、気象、経済、経営学など一次産業での仕事に直結するような学習ができる特別コースを増設してはどうか。また、町内の多くの人が南三陸町役場職員や公務員を目指す傾向にあることから「志津川高校に通えば公務員試験に絶対に受かる」と言わしめるようなコースがあっても説得力があると思う。単刀直入に、田舎だからこそ、この先続くであろう自分の生活に直結した授業を提供できる高校こそが、地元から求められる。他地域からの流入に力を割く必要性は感じない。地元の生徒が通いたい、学びたいことが学べそう、親が子を通わせたい、と思えるような高校にすることが先決。選択肢やチャレンジの場が非常に少ないという大きなハンデは、この高校にしかできないカリキュラムがあることや、コース増設することで挽回できるはずなので、ぜひ取り組んで欲しい。	
	29	人的、財源的に余裕があるのならば、特進もしくは語学コースが必要だ。中学校の6年間という時期に、自分の地域以外を知ることは非常に大きな学びになることは間違いない。質の高い授業を提供するために必要なのは、何と言っても優秀な教員だ。人材は簡単には確保できないので険しい道だと思いが、チャレンジして欲しい。		
	30	学科を増やすのが難しいのであれば、コースを増やし、水産、農林業など南三陸のフィールドを大いに使いエキスパートを育てるような取り組みがあっても良い。学生のスペックを上げ、卒業後即戦力となる人物を育てると企業も協力してくれるのではないか。		
	31	魅力ある学科新設をすることで志津川高校への定着率を上げ、他校流出を防ぐことが必要だと思う。		
	32	他校には無い部活を新設し、より魅力ある学校を創設する必要がある。どうしてもこの学校ではないと駄目というくらいの魅力を作らないといけない。		
	33	情報ビジネス科では、現場学を身につけた方が、社会に出て強く、賢く生きる事が出来るのではないか。情報ビジネス科は普通科には合格出来ないからという理由で志望されてはいけない。		
	34	情報ビジネス科において、経営についての知識や会計や金融原理の理解は必須だ。また、商品開発も大事だが、それ以上大事なものは販路開拓、販売です。その辺の教育強化も必要ではないか。		
	35	特別進学コースでも、地域創造コースのような学びが必要だと思います。ソサエティ5.0時代を迎え、社会に求められる力が変化している。偏差値ではかれる学力だけではなく、社会で必要となる力を養ってほしい。		
	36	多くの私立高校で行っているコースのため、全国発信と考えると弱い。少人数教育を生かし、難関大学に入れる道を提供することをアピールするのであれば、そうした意欲を持った生徒を何人か集めることは可能かと思う。しかし、数名コース（クラス）として成り立たせなければならない、という状況になった場合、クラス運営は非常に難しい。学習環境の整備（同じような学習意欲をもった者だけで授業を進めていける）という観点でみると、進学者用コースを明確に設定するのは、そのコースの生徒にとっても有効。		
	第3節 施策1(1) 学ぶ意欲と確かな学力を 育むキャリア教育や少人数個別指導の充実	37	進学を考えている子供に、志津川高校では大変であると思われる。個々の学力向上施策で個別指導が行われる、大きな魅力になるのではないか。	
	38	タブレットの配布については望ましいだろう。志津川高校に入学すれば、最先端の教育を受けることができるという印象が根付けば、進学希望者増加も見込める可能性があると思う。また、「ICT教育推進」は、町に住む人にも非常にわかりやすい付加価値である。		
	39	少人数の指導を行うことによって分からないところを丁寧に教わることができ、1人1人の確実なレベルアップにつながる。また、タブレットも使うことで効率的に学習ができるという点に魅力を感じる。		
	40	町内の中学生が志高へ通いたいと思える高校になることが必要だ。町外へ行く人が多い原因が学力であるのであれば、ある程度の学力向上が急務である。		
	41	一人一台タブレットは疑問だ。多くの生徒がスマートフォンを所持しており、使ったことのないタブレットより自己所有のスマートフォンの方が使い勝手が良いのではないか。		
42	周辺の高校より先だって先進的な取り組みを取り入れるのは地域の中学生や保護者には効果大。導入は早いほうが効果的だ。			

章	細項目	No.	ご意見の内容（要旨）	町の考え方
第5章	第3節 施策1(2) 校外での学びの機会の提供	43	地方の独自性を活かしたまちづくりの一例として、大分県豊後高田市の教育支援策など大いに参照すべき事例だと思ふ。例えば、公営塾の運営などについては、大企業や大手予備校に頼ることは否定しないが、地元の退職教員らを活用した幼少期からの教育支援活動など、町の優れたマンパワーを最大限に活かし、大手企業はそれを側面から支援する、という構図を描くべきだ。	志翔学舎は開設当時よりNPO法人に運営を委託し、実施しております。民間企業の提供しているICTサービス等を効果的に活用し、より魅力的な場所になるよう、検討を進めてまいります。
		44	かつての志津川高校の魅力は様々な生徒が一体となって学んだり、目標に向かって取り組んだりしていたところだと思ふ。そのためにも、今現在の町内の2つの中学校の8割近くが志津川高校へ進学を目指し、現に志翔学舎があることはかなり魅力的であり、実績があれば、進学を目指す生徒も気仙沼高校や佐沼高校に流出しなくて済むのではないかと思ふ。そして、人口減少が顕著なため、流入人口を増やしていく必要があると思ふので、ぜひ改革をお願いしたい。	
	第3節 施策2(1) 小中学校と連携した学習の推進	45	南三陸町において、小中高の連携は非常に望ましい取り組みであり、ぜひ早急に実現して欲しいと思ふ。児童数・生徒数が、学校数が少ないからこそ、お互いの顔を知っている子が多いからこそ実現可能であるし、都会では絶対になし得ない大きなアドバンテージであることも間違いない。	多世代交流は教育的観点からも非常に重要であると考えております。県内唯一の連携型中高一貫教育校の特徴を最大限発揮できるよう、志津川高校、町教育委員会、中学校とも連携を図りながら検討を進めてまいります。
		46	ふるさと学習、連携教育については早急に成果検証の必要があるのではないかと。志津川高校は県内唯一の地域連携校だが、当事者である生徒が必要を感じているのか。	
	第3節 施策2(2) 部活動などの対外活動の支援や外部指導者の強化	47	女子硬式野球は北海道の札幌新陽高校がすでに導入し、インターネットなどで積極的にPRされている部活動だ。他校に負けない、全国大会にもっとも近い部活動という点では確かに魅力的である。だが、南三陸町でこれまでずっと大切にしてきた部活動、あるいは、地元の利を活かした部活動を積極的に支援することはできないものか。例えば、ラムサール条約に係る環境研究に成果を挙げている自然科学部を地道に育てることが、世界規模でアピールするだけの効果はある。公立高校では、部活動の指導者となる教員の人事異動もあり、永続的な指導者を確保しにくいことも考慮すべきだ。	第2回協議会資料にもごさいますように、直近10年間の男子中学生の野球競技人口は、約45%減少しています。その一方で、女子中学生の野球競技人口は、約3倍に増加しております。本協議会の調査では、宮城県内に約200名の女子中学生が野球に取り組んでいることを把握しております。また、その多くの中学生が高校進学後硬式野球を継続するために県外の高校に進学しております。しかし、女子硬式野球部がある高校は全国で約30校、東北地方には1校（通信制）のみとなっております。指導者や実施体制については、専門部会等で検討を進めてまいります。 なお、女子硬式野球部については他校の女子硬式野球部と差別化をはかることが本構想の主目的ではなく、あくまでカリキュラム改革を軸に、志津川高校魅力化を推進していくことが重要であると考えております。部活動ではなく、カリキュラムを他の高校と差別化ができるよう検討を進めてまいります。 その他、部活動については、施策4「目標に向かってチームで協力し合う活動の充実」に記載している通り、少人数でも生徒が主体的に活動することができる活動内容について専門部会等で検討を進めてまいります。
		48	現実味をあまり感じられない。野球を愛する町なのかもしれないが、そもそも中学校に女子硬式野球をやっている人はどれくらいいるのか。視野に入れている全国募集で生徒を集めたいのかもしれないが、本気でその競技をしたい生徒は、都市部の私学高校に進学するのではないかと。都市部の私学高校相手に生徒募集で勝つことができるのか。外部指導者の任用も視野に入れた時に、コストパフォーマンスが高くなると思えない。	
		49	是非、他でやってないことをやって欲しい。女子硬式野球部は非常にいいと思ふ。中途半端ではなく、有望な指導者を呼んで、実績をあげるにより地名度も上がり、就職・進学にも影響を及ぼすと思われる。町としても盛り上がり、相乗効果も生まれて来ると思ふ。	
		50	女子硬式野球部をつくってほしい。	
		51	「女子硬式野球部」の新設とあるが、成り立つか。また、生徒から女子野球の声があるのか。今のテレビなどではダンスを多く目にする。「ダンス甲子園」を目指すのはどうか。	
		52	女子硬式野球部は必要ない。これほどまでに人口減少が叫ばれているのに、大人数の部員が必要なスポーツの部活を創設する必要性の説得力に欠ける。基本的な部活動とは、生徒自身が入部したい部活を選び、そこで彼らの心身が健全に育まれ、社会性を身につける場であり、それ以上でもないことをまずは捉える必要があるのではないかと。	
		53	私立高校の施設の充実、県外への頻繁な遠征、保護者の寄付を含めたバックアップ、公立では有り得ない予算、これらは志津川高校にはまず不可能ではないか。専門指導者や講師の招聘は、成果重視型にして欲しい。はじめてみてダメだったら、一旦立ち止まる必要もある。	
		54	女子硬式野球部の発足は東北地方で最初の高校となりそうであり、ある種斬新だと思ふ。しかし、仮に部が出来たとしても練習試合をするのでも、最低限、白河の関を超えなければならず、場合によっては飛行機や新幹線の乗り継ぎでの遠征だ。そうすると、生徒は満足に授業の出席も出来ず、生徒は集まらないのではないかと。	
		55	全国発信のための1案としては検討の価値はあると思ふ。現在、いくつかの部活動では部員不足のため「大会時のみ部員間の手伝い参加」が行われている現状を考えると、女子硬式野球部も発足数年後には同様になるのではないかと。スポーツで全国募集は、運営面で困難な点が実例で多くあげられており、様々な面で非常にハードルが高いのではないかと。	

章	細項目	No.	ご意見の内容(要旨)	町の考え方
第5章	第3節 施策3(1) コミュニケーション力向上のための実践型教育の推進	56	南三陸町で「あうん」の呼吸で育ってきた生徒の現状は、確かにそうであると思わされる。それであれば、対外プレゼンテーションではなく、大学と協力して、大学生をゲストティーチャーとして町が招き入れ、意見交流をする方が生徒の力になるのではないかと。	大学生との交流については、施策5(1)「専門学校、大学と連携した地域資源活用事業の推進」に含まれるものと考えております。 インターンシップの内容やカリキュラムについては、施策4(2)「地域課題研究などプロジェクト型学習の推進」と関連するものと考えております。地域事業者との協力体制等についても、専門部会等で検討を進めてまいります。
		57	コミュニケーション力向上のための実践型教育の推進が良い。対外的なプレゼンテーションの充実をすれば外の人にも南三陸を知ってもらえるかもしれない。他の地域でプレゼンしたりすると、他の地域の人にも知ってもらうことができる。	
		58	南三陸町は起業型の地域おこし協力隊も多数おり、連携してインターンを実施、協力隊の話を聞く機会を設けるなど、高校生の課題解決力やコミュニケーション力を伸ばし、起業家精神を養うには最高の環境が整っていると思う。	
		59	アクティブラーニングの推進は必要だ。パソコンと大型液晶テレビがあれば相当の機能が使える。	
		60	現在、志津川高校では2年次のみ3日間の実習を行っており、学校側が企業と連絡を重ねて実施している。インターンシップはコミュニケーション力向上、町への帰属意識育成には最適な学びだ。高校在学中の3年間を通じて複数回の実習ができるよう、町がその機会を整備すると、より充実する活動になるのではないかと。	
		61	生徒主体の教育活動の推進、少人数クラブ活動の推進は良い事だと思う。部活と両立させるとなると、生徒の負担を感じる。生徒に選択の余地を残すことが重要だ。	
	第3節 施策4(2) 地域課題研究などプロジェクト型学習の推進	62	地域学はとてもおもしろい授業だと思う。志高の授業は教室の中で完結する授業が多い。自分で考えて、何か行動するような授業がほとんどなかったため、実践がともなう授業はとても必要だと思う。	南三陸町でしかできない課題解決型学習の実現に向けて、カリキュラム内容や地域事業者等との協力体制について専門部会等で検討を進めてまいります。
		63	私自身、まちづくり議会を通して自分自身と地域を結びつけて行動した経験が、大学でも活かされている。考えるだけでなく、行動を起こすまで授業で取り組めると良いと思う。	
		64	高校の授業にもっと先生以外の大人が入ることが良い。学校の先生はあまり社会を知らない。これから社会に出ていく高校生は、社会で活躍している人から学ぶことが多いのではないかと。	
	第3節 施策5 地域資源の活用や多世代交流の推進	65	こうした施策を通し、高校生にどんな経験をさせるのかという視点が大事なのではないか。施策5の多世代交流の推進であれば、「小中学校に通う児童および生徒に、自分でも伝えられることがある」「地元の子供達の成長に、自分も貢献できる」といった“成功体験”を積ませることが必要だ。「自分を帰るきっかけ」を経験した場所(地域)や組織、業界に対し「将来なんとか貢献したい」という気持ちを起点に考えることが多いため、「高校＝成功経験を積んだ場所」「いまの自分の起点」になることが大事。	地域資源の活用や多世代交流は、「ロールモデルとの出会い」「生徒の自己実現」に向けて非常に重要な取り組みであると認識しております。地域のサポート体制等については、専門部会等で検討を進めてまいります。
		66	農漁業より「事務系へ」という意識は大人にある。P16(2)の体験には賛同する。生きる上で、自給自足ではないが、それに近い食料収穫の大切さ(日本製、地元産)を伝えて欲しい。	
		67	地域資源の活用や多世代交流の推進について、卒業後のロールモデルと出会える機会の創出は、卒業後のU.Iターンに必要な重要な施策だ。	
	第3節 施策5(2) 高校生の活動をサポートする人材ネットワークの構築	68	応援組織を設立するのではなく、それを軸に町民を募集する方が無理がないような運用になると思う。どれだけ人が集まるかという課題はある。	持続的に高校生の活動をサポートするためには、応援組織等の仕組みづくりが必要だと認識しております。
	第3節 施策6(1) 地域留学および海外からの留学および受入れ・交流・派遣の推進	69	インターネットやSNSの発達により国や地域を超えた交流や情報交換が身近になっており、異文化交流や語学力の習得に関心を持つ生徒が増えているため、海外交流におけるサポートの充実はとても魅力があると感じる。	経済のグローバル化が進む昨今、社会の変化に対応するために、新たな価値観や異文化を受け入れる力を身に付けることが重要であると認識しております。しかし、南三陸町では狭い人間関係が高校まで続き、新たな価値観との出会いや新しい人間関係を構築することが、困難な環境にあります。新しい価値観を寛容に受け入れ、認め合い、尊重しあう環境や機会として、海外留学や多様な交流を行うことが有効であると認識しております。 地域留学制度については、内閣府が実施している「高校生の地域留学推進のための高校魅力化支援事業」の動向を注視しながら、具体的な取り組みについては専門部会等で検討してまいります。
		70	大人の責任も大きいと思うが、他地域の高校生よりも話をしても視野がせまいと感じる。ネット等の情報が多い時代であるが、知り得たことを噛み砕く、吸収する、自分の知的財産にする、その先を見据える一。のように考えが進歩、進化していないように思う。情報ではなく、実体験を経験させるべきではないか。	
		71	とても羨ましい計画である。町では台湾との絆が強く民泊の受け入れも前向きに思える。長期民泊をした方々からの評価は良いと耳にしている。交換留学ができるといい。日本の歴史を知る機会にもなる。	
		72	南三陸町は台湾と交流がある。台湾の高校生や大学生とはSkype等で交流授業を行うことが良いのではないかと。世界各国に行くのは現実的に難しく、YouTube等を授業に活用するのも良いのではないかと。	

章	細項目	No.	ご意見の内容（要旨）	町の考え方
第5章	第3節 施策6(1) 地域留学および海外からの留学および受入れ・交流・派遣の推進	73	新たな価値観を受け入れる多文化共生の推進には若干の異論がある。南三陸町には100人を超える外国人労働者がいる。若い世代が多く、生徒たちとの交流により、お互いに発見があると期待する。高校に限った話では無く、小中学校にも当てはまる。	第6章「成果指標（KPI）と目標値」に記載の通り、町内児童生徒数は急速に減少しております。また、第1回協議会資料にあるように、気仙沼・本吉地区の児童生徒数も減少の一途をたっております。そのような状況下において、少ないパイから生徒数を奪い合うような状況では、持続的な生徒数確保は困難であると考えております。 今後のさらなる町内生徒数の減少に備えて、県外生徒の受入可能人数を、1学年あたり25人前後と設定し、既存施設の活用や民設民営を柱に、寮の整備や下宿などの受入体制等について専門部会等で検討を進めてまいります。
		74	地域留学および海外からの留学生の受入れ・交流・派遣の推進、現状は人の流れで言いますと交流人口ではなく、直流入口である。これを是正するには、とても良いことだ。	
		75	海外の高校との交流授業、まず1番の近道は、修学旅行の行き先に台湾も含む事ではないか。既存の京都方面も生徒の意向を聞き、残すのなら選択制にして良いと思う。また、震災以降、関西の多くの高校と交流があり、各校への表敬訪問を行うべきだ。	
		76	留学生派遣制度は基本的には賛成だ。全額補助ではなく、生徒の自己負担も考えるべき。	
		77	地域留学制度はあまり現実的ではない。首都圏の高校生は、高校入学、即受験勉強の生徒が多く、地域留学する時間がある生徒はいないのではないか。	
		78	台湾はじめ、中国や韓国の学校と提携し、1週間程度の交換留学を行うことを提案する。通常授業期間に行い、双方の学校の授業を受けるといった、「短期交換留学」が希望。留学で他国へ行く生徒だけでなく、通常どおり志津川高校に通う生徒にも異文化を理解する機会が提供される。	
	第3節 施策6(2) 寮の整備等の受入体制の強化	79	全国的に高校定員割れが大きな問題となっている現状にあつては、全国一括募集・寮制度に適應できる若者がどれだけ集まるだろうか。寮制度を導入し、失敗した事例も全国いたるところに見受けられる。財政的にも相当厳しい時代を迎えるにあたって、その場合の対応策をどうするのか。	
		80	県外から生徒を募集する際に、どんな生徒が来ることを想定しているか、そして実際にどんな生徒が入学するかが重要である。積極的な意味で、意志を持った生徒が入学するのということだ。保護者が、家庭では到底手に負えないため遠くへ行って欲しいという狙いで、志津川高校に入学させようとする可能性も否めない。そのような生徒が集まれば、問題行為が頻発し、町の中学生が志津川高校を避ける可能性もある。県外からの生徒募集については、こうした問題点も慎重に議論していく必要がある。	
		81	志津川高校の入学者は年々減ってきており、南三陸町にとって志津川高校の魅力化が必要不可欠であると再認識した。遠方からの入学者を増やすために寮の整備を行うことはとても良いと思う。	
		82	全国から入学してくることは、嬉しいことだと思う。中学校と高校の人間関係にあまり変化がなく、その分大学に入学してからとても楽しく感じている。高校の時から、色んな人と触れ合えるのは、嬉しいことだ。	
		83	全国募集は賛成だ。生まれてからずっと同じ町にいたので、自分たちには気づかない町の良さを再認識できると思う。	
		84	地域が一体となり、高校だけではなく移住してくる方々に協力していくことで、地域活性化と少しでも人口が増え、昔ならでのコミュニティと新しいコミュニティが合わさることで過疎化が問題となっている地方の新しいモデルとなるのではないだろうか。何もしなければどんどん過疎化は進むため、ぜひとも魅力化を進めてほしい。	
		85	地域外から生徒を取り込むことは、現時点では必要ないのでやめるべき。もしも、幼少期から同じメンバーと過ごすことが多い環境に風穴を入れたいのであれば、1. 擬似就職授業→関わりを持つ人を増やす。2. 姉妹都市など短期留学、交換留学先を増やす（国内外）→町内の生徒が町外へ学びに出るチャンスを増やす。以上の方法でまかなうことができるのではないか。中学生にとって魅力的な授業をしている高校になれば、自然と生徒は集まると思う。	
		86	県外生徒の受け入れを既存施設の活用で行うとあるが、そこから学校に行くまでの通学方法をどうしていくのか気になる。流石にそれも全部各家が負担するようならば魅力が薄くなると感じる。	
87	寮の設備等の受入体制の強化、寮の魅力化と受入体制の充実、寮の建設は反対だ。県立校で寮が整備されている高校は知らない。仮に県が認可したとしても町としては応分の負担を発生する。まずは、下宿等からスタートするべきではないか。			

章	細項目	No.	ご意見の内容（要旨）	町の考え方	
第5章	第3節 施策7 自分の夢に向かって取り組む場と機会の提供	88	マイプロの手法を使ってまわりの皆が自分のプロジェクトや夢を堂々と語れるようになれば全体の意識も徐々にではあるが変わってくる。とはいえすぐに変化するのは難しく、自分の考えや行動をまわりの人たちに伝え、仲間をつくり、同時にまわりの人たちの考えや行動を理解するためにはNVCやコーチングのスキルを身につけコミュニケーション能力を養うことも重要だ。	小規模校だからこそ、一人ひとりの生徒の夢や「やってみたいこと」の実現に向けて、学校だけでなく、地域全体で応援する体制をつくってまいります。	
	第3節 施策8 社会を変える力を生み出す取り組みの推進	89	「意見を言っても変わらないと思っている」という生徒アンケートが、今の学生の全てを語っているように思う。高校生の意見を大人が否定せず、それこそ、できる理由をお互いに考えて行くことが必要だと考える。志津川高校魅力化構想も大人だけで考えるのではなく、話がある程度まとまったら中学生、高校生に意見を投げかけることも必要だと思う。	生徒自らが学校や地域の問題点に気づき、解決に向かうための取り組みを推進することが必要だと考えております。施策7「自分の夢に向かって取り組む場と機会の提供」も含めて、生徒の自己実現に向けた取り組みを検討してまいります。また、第7章第1節「協議会と専門部会（実行体制）」に記載の通り、現役中学生や高校生の意見を反映させることができるよう、専門部会の構成員として検討を進めてまいります。	
		90	校則の検証や見直しを生徒が行い、教員側に合理的理由が無く、生徒に納得させる事が出来ない場合、生徒による改定や廃止が必要ではないか。また、本構想についても、生徒がこれは良いと思った事柄は、優先的に取り入れるべきだ。		
	第3節 施策9（1） 生徒募集と情報発信の強化	91	学校のPRがとて重要になると思う。これまでのイメージを払拭し、新しくなった志津川高校を発信する必要がある。	情報発信については、志津川高校魅力化特設ホームページの開設やSNS等を活用した情報発信、高校で開催するオープンハイスクールに加え、出張説明会等で情報発信を行う計画となっております。効果的な情報発信や効果検証等については、専門部会等で検討を進めてまいります。	
	第3節 施策9（2） 魅力化事業の推進体制の充実	92	全体的に素晴らしい構想で、これが実現すれば本当に理想的だが、実現するための体制が作れるのかが心配だ。「地域と関わる時間を組み込みました」「タブレットを配布しました」では、求めるような人材の育成はできない。強力なリーダーシップを持った人が学校内部に必要だと思う。校長先生を民間から招聘、町独自の雇用するポジションを設けて、校長先生と同等の権限を持たせる等、考えられないか。県採用の先生方は、数年で転勤があるため、責任を持って、学校改革を牽引していけるリーダーが不可欠だと思う。コーディネーターがどこまでの役割を担うかはわからないが、地域と学校をつなぐ役割のような印象を受けるので、学校改革や先生方のマネジメントを担うには不十分だと感じる。	施策9(2)「志津川高校魅力化事業の推進体制の充実」に記載の通り、宮城県教育委員会、南三陸町、志津川高校、その他人材等の役割分担を明確にしながら検討を進めてまいります。	
			93		この構想はとても素晴らしいと思う。しかし、志津川高校の先生がこの構想に好意的な反応を示すとは考えづらい。志翔学舎より補習を優先させたり、自分たちがプロだと思い込んでいる節がある。先生が変わるか、先生を変えられる人が学校内にいなければ実現できない。
			94		本構想はとても素晴らしく評価できる。実現に向けては宮城県教育委員会との連携が不可欠だ。例えば、町の人材を志津川高校に派遣するなど実行する人材が重要になってくるだろう。例えば、島根県では隠岐島前高校のコーディネーターを県教育委員会の教育魅力化特命官に任命している。南三陸町の動きを宮城県教育委員会は人材や制度という側面からバックアップすべきではないか。県と町で役割分担を明確にするべきだ。
			95		本構想を進める上でのマンパワー不足や人材、予算など足りているのか不安はある。構想の実現にあたっては、皆をまとめ上げ邁進していくようリーダーシップが取れる人は必要不可欠だと思う。不安もありながらも、素晴らしい取り組みだと思うため、たくさんの人に周知し、事業を進めていただきたい。
			96		学校経営は校長先生が鍵となる。麴町中学校の工藤校長先生や札幌新陽高校の荒井校長先生、創成館高校の奥田校長先生など、学校は校長先生の手腕とそれを支える人にかかっている。果たしてそのような校長先生が配置できるのか。人事については大胆な動きを期待している。
	第3節 施策9（3） 財源確保	98	どれだけのお金が必要なのか。本構想を支障なく実施するには、有名私立高校か、それ以上の負担が強いられることは確実かと思われる。そして、そのお金の流れはどうなるのか。苦労して集めた財源がそっくりそのまま東京の大手企業、大手教育産業に吸収される構図にははしないか心配である。	財源等については、専門部会等で事業の優先順位やその効果性の検証を行いながら適正な予算を検討してまいります。財源確保策については、「志津川高校応援サポーター制度（仮称）」等、持続的な策を検討してまいります。	
99			高校独自のファンドレイジングは、2,3年で異動する教員が積極的に行う事業だとは思わない。想定される財源確保は、クラウドファンディングだが、これは一時金であり、継続性はありませぬ。		
100			2024年の生徒数の減少に危機感を感じる。アンケートからの分析をもとに新しく魅力ある志高へ・・・との切実さが伝わった。		
第6章	成果指標（KPI）と目標値	101	成果指標と目標値がだめだった場合どうなるのか。施策の検討、各会議は、議事録として町のホームページ、広報誌等に掲載するべきだ。	現状の生徒数と目指す方向性を明らかにするために、「成果指標（KPI）と目標値」を設定しております。次年度の協議会ならびに専門部会での議論については、広く町民に周知できるよう情報発信に努めてまいります。	

章	細項目	No.	ご意見の内容(要旨)	町の考え方
委員名簿	委員名簿	102	女性委員が一名なのは少ないのではないかと。保護者世代、特に母親世代の意見を多く組み込むべきだ。	第7章第1節「協議会と専門部会(実行体制)」に記載の通り、現役中学生や高校生の意見を反映させることができるよう、専門部会の構成員として検討を進めてまいります。また構成員については、本事業に知見をもった方々を中心に委嘱しております。構成員については、本事業の進捗と照らし合わせながら、随時検討を進めてまいります。
		103	委員に現役高校生を入れてもいいのではないかと。年の近い卒業生でもいいかもしれない。	
その他	その他ご意見	104	Uターンもしくはそのまま地元就職にせよ、やはり町に大きな魅力がないと定職定住が難しいように思う。隣町、仙台、東京等での生活に慣れてしまった人をどう取り戻すかが課題だ。	ファンドレイジング、クラウドファンディングについては、わかりやすい表記に変更いたします。
		105	志津川高校生達と話をしていると、ピュアな人間性やハングリー精神に刺激を受けることがあり、高校生達チャレンジや活動に縁があれば応援したい。内向きの地域性と外向きの地域性の使い分け、助け合いや地域への愛情を育みつつ、外へ開いていく本構想に大きな期待を感じている。その中で地域(企業、住民)が学びの受け皿の一部を担う仕組みづくりが必要ではないか。	本協議会では、志津川高校魅力化に資する学科・コースならびに施策について議論を行なっております。学校の形態(全日制、定時制、通信制)の変更については、本協議会で実施した中学生・保護者アンケート調査で、通信制高校を望むご意見はいただいておりますが、現時点検討しておりません。
		106	「通学する子供たち」を考慮するならば、少なくとも通学可能な範囲にて学んでいる現役の中学生にアンケートを実施することが必要だとではないか。最低限、気仙沼管内の中学生の意見は必要だ。	南三陸町では、「看護・介護学生等修学資金」を設けております。看護・介護学生等で、将来、町内の医療機関等において保健、医療又は福祉の業務に従事しようとする方に修学資金を貸し付ける制度となっております。その他、奨学金制度等については、その必要性を含め、本協議会で調査、検討を進めてまいります。
		107	通信制高校の需要が高くなっている事にも着目して頂きたい。履修カリキュラムを自己管理し、単位を習得するという大学にも似たようなスタイルは、数年後、社会参加を明確に見据えており、高校生のカテゴリとはいえず目を見張るものがある。県内の全日制高校においては、自己管理の出来る生徒が通う高校は、ヘアスタイルの制限や私服を認めている学校の倍率が高い傾向ではある。	生徒数減少により学食が無い高校が増加傾向にあります。ニーズ把握のための生徒・保護者等へのアンケート調査及び実現の可能性について検討を進めてまいります。
		108	志高生が南三陸町に与える影響はこれまでの実績を考えても非常に大きいのは明らか。南三陸町にとって志津川高校は必要だ。	
		109	志津川高校存続の為に大変良いことだ。南三陸から若い力を育てることによって町も活気づいてほしい。	
		110	構想は素晴らしい。先生方のアイデア、持続がより求められる。	
		111	本構想はとても良い。しかし、もっと中学生の心を驚掴みにするようなワクワクするような、キラキラするような心を動かされるプログラムがあれば良い。志津川高校に行ったら楽しいだろうと思えることが必要。	
		112	地方の高校に見られる話ではあるが、「自分はこの高校に入ったから、この科に入ってしまったから、この進路しかない。」といったある種のあきらめが感じられる生徒が多いように思う。高校へ入学して3年後には卒業して就職が大学又は専門学校等への進学という道しか選択肢がない。中高生から主体性をもって考える、行動するという習慣を身につけておかなければならない。	
		113	「地域が子供を見守り、育てる土壌」があることの強みを生かし、「多くの生徒が国際交流できる場があり、町と高校が一体となって子供の異文化理解力を伸ばしている地域」であることを発信できるようになることが必要だ。	
		114	他校との差をどのように出すかという点が気になる。生徒への負担は大きくなりすぎないか考慮すべき。	
		115	一読して理解しにくい語がある。括弧書きで日本語を入れると良い。(PDCAサイクル、ファンドレイジング、クラウドファンディング)高齢者にもわかる日本語を用いてほしい。	
		116	毎年定員割れしている状況を危惧している。すばらしい構想だ。私自身、卒業生で志津川高校生活の3年間がとても楽しかった思い出がある。無くなったり、衰退するのは辛い。	
		117	他の地域でも同じような魅力化事業は進められているため他地域との差別化が重要。子ども達、その保護者を選んでもらえる南三陸独自の魅力や奨学金制度、資格制度などがあるといいのではないかと。	
		118	外部講師の充実をしてほしい。生徒の可能性を広げられるような人希望。	
		119	地域外の学生を入れるのがあれば、購買の充実や学食があっても良い。地域の人が、一緒に使えとなお良い。	
		120	購買をもう少し大きくして欲しい。可能であれば学食がほしい。体育館の開放、部活動の強化、情報科目の強化、インターネットを使った授業を増やしてほしい。	
121	ページにはないが、校則の緩和も、一つの魅力になりうる。流石にくつ下の色まで決められたら私は嫌だ。選ぶときに「この高校、校則厳しいから行きたくない。」となる人もいるだろう。			